

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 1 9 号	
件 名	議会に対しBRT事業の速やかな総括と自己批判を求めることについて	
要 旨	<p>BRT事業は日本初の公設民営方式で、9月5日いよいよスタートの運びとなりました。</p> <p>当BRT事業は行政当局（市）並びに議会が多くの市民のBRT反対の声を無視し、市民の税金70億円（第1期工事35億円、第2期工事35億円）を投入して新潟市が主導する費用対効果を考えない無謀な事業として展開されております。</p> <p>御承知のごとく、公設民営方式の事業展開は名ばかりの代物で、新潟交通は1円も金を出しておらず、全て我々市民の税金70億円で運営されますゆえ、新潟交通の経営責任よりも新潟市の経営責任が大であり、BRT事業が赤字になれば新潟市が赤字を補填しなければならない責務があります。</p> <p>新潟駅前－青山イオン間のBRTバスの利用予想者数から考え、費用対効果は少なく、税金の無駄遣いとなる可能性が極めて大きい事業と推定できます。</p> <p>BRT事業は、行政（市）側が提案し、議会が当事業に賛成した経緯があり、BRT事業が赤字になった場合は、議員にも共同責任が発生してまいります。</p> <p>64%以上の多くの市民がBRT反対と叫んでいるにもかかわらず、篠田市長と議会は民意に背を向けBRT事業を強行しております。</p> <p>議員はBRT事業に対し速やかに総括と自己批判をし、BRT事業が所期の目的を達成できることを願いつつ陳情いたします。</p>	
付 託 年月日 委員会	平成 27 年 9 月 14 日	議会運営委員会
受 理	平成 27 年 9 月 4 日	第 3 2 5 号